

それゆけ！ としよかんだより



2011年2月

第46号

発行所
高野山大学図書館
閲覧室

古典籍逍遙

【第十二回】 図書館長 武内孝善

『紀伊国名所図会』三編巻四～六 高野山

【書誌データ】

袋綴装、四冊、天保9年(1838)刊、たて26.6センチ、よこ18.7センチ
楮紙、薄紺色表紙、四之巻上は表紙とも51紙、四之巻下は表紙とも40紙、
五之巻は表紙とも56紙、六之巻は表紙とも55紙。

紀伊国の名所・旧跡・神社・仏閣などの由来および産物などを記し、風景面を書きそえた地誌の一つ『紀伊国名所図会』四編18巻23冊のうち、高野山の部(3巻4冊)を紹介いたします。四編18巻23冊は四期にわけて刊行されました。その内訳は、初編3巻5冊は高市志友撰・西村中和画で文化8年(1811)の、二編3巻5冊は同じく高市撰・西村画で文化9年(1812)の、三編6巻7冊は加納諸平撰、西村中和・小野広隆・上田公長画で天保9年(1838)の、後編6巻6冊は加納諸平・神野易興撰、小野広隆画で嘉永4年(1851)の刊行、となります。

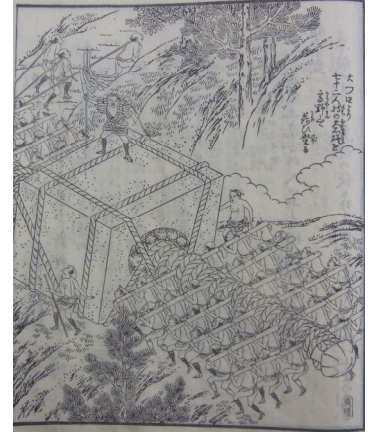
高野山の部は三編に収録されており、3巻4冊からなります。四之巻は「高野山之部上」とあって、二つの部分からなります。一つは、巻頭に収録された「総図・凡例・全図・領地・臨幸・登山七路・雑事登」の項で、いわば総説にあたる部分です。総図では、慈尊院・天野から大門・奥院にいたる「高野山之部」でとりあげる全体の図をあげ、全図は奥院から大門にいたる高野山内の総図で20紙におよぶきわめて詳細なものです。もう一つは、高野七口のうちの、歴史的に重要な「大門口」とこの当時一番利用された「不動坂口」の風物を描いた後半部分です。「大門口」「不動坂口」のさいごには、それぞれ「大門口より天野までの図」「不動坂より学文路までの図」があり、江戸末期の登山道の様子をうかがうことができます。

五之巻は「高野山之部中」とあって、やはり二つの部分に分かれます。一つは、巻首に収録された「大門・地名・内外八葉峯・禁止・^{いぬをかふ}畜狗・山上十楽・時候」の項で、山内の概略を記しています。この項のさいごに挿入された三つの図、①土室②小田原谷往来③^{こほりたうふ}氷豆腐製造の図は、高野山の特色を描いたものといえます。特に③には、製造の過程が活写されています。あと一つは、山内の谷々を詳しく記した部分で、この巻には西院谷・壇場・南谷・谷上・本中院谷・一心院谷・五之室谷・千手院谷の寺々を収録します。注目すべきは「壇場」の表記です。空海が高野山の地をいかに見ておられたかを考えたとき、「壇上」よりも「壇場」がより相応しいといえます。

六之巻は「高野山之部下」とあって、残りの山内の谷、すなわち小田原谷・往生院谷の寺々と奥院を収録します。本書には、各地の大名と寺檀関係を結んでいた寺院には、その^{しりつき}尻付に「檀契」として大名の名前が記されます。たとえば、往生院谷の成福院には「毛利甲斐侯・宗対馬侯・岩城伊予侯・毛利讃岐侯」とあります。

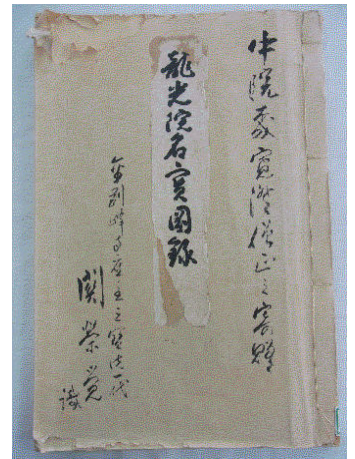
本書の本文は、変体かなで記されていますから、慣れないと読みづらいところがありますが、挿入されている図画だけを見ても、結構おもしろく色々なことを教えられます。たとえば、奥院にあります巨大な五輪塔の石は、いかにして高野山に運んだのか、疑問に思ったことはありませんか。この答えが四之巻の総説のところに見られます。写真にあげましたように、石の真ん中をくりぬき、そこに丸太をとおし、それに棒を結わえ、前とうしろに配した男たちが荷いあげています。この画には「大門口より七十二人持の^{もち}大石塔を^{おほせきたう}高野山へ^{にな}荷ひ登る」と記されています。

高野山に関する事で、何か疑問に思うことがありましたら、一度、本書をひもといてみられることをお勧めします。



蔵書に記された先徳墨跡(一) 高野山中院御坊龍光院名宝図録 図書館員 木下浩良

本書は昭和23年6月に、発行所高野山龍光院、発行者森寛澄として公刊された、同院の什宝49点を紹介した図録です。印刷所は、美術書の出版を多くてがけた京都の便利堂です。同書表紙の書名をはさんで、「中院森寛澄僧正之寄贈」「金剛峰寺座主三寶院一代、関榮覚、識」と墨書してあります。本書は、森師から関師へと寄贈されたものが、さらに本学図書館へ贈呈されたものです。



墨書をしたためた関榮覚師とは、自身で明記されているように昭和21年4月に第343世金剛峯寺座主に就任された高僧です。高野山三宝院主で、高野山大学の前身である真言宗連合大学林を明治34年に卒業。翌35年には高野山悉地院に晋住。大正2年、開教監督としてハワイへ渡航。その後は金剛峯寺執行、宗会議長、執行長等を歴任。昭和17年には第442世寺務検校法印職に昇進。明治・大正・昭和期の激動の真言宗内において果たされた、同師の功績は極めて大きいといわれています。昭和32年2月14日に、81歳で遷化されました。

墨書にある森寛澄師も、昭和29年に第455世寺務検校法印職に昇進された高德です。普賢院重松寛勝師(高野山大学の前身の古義大学林卒業、第416世寺務検校法印、小野派管長、随心院門跡等を歴任)の跡を継ぎ、大正9年に同院住職。昭和18年、高野山龍光院に晋住。同31年、72歳で遷化されました。本書を公にしたのは、前記のように森師自身です。龍光院は、弘法大師の居住地の地だったとされ、中院御房とも呼ばれる別格本山です。多くの寺宝を所蔵し、本書の刊行により一般にも広くその一端が紹介され、記念すべき図書となりました。

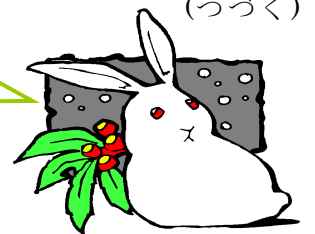
関師の金剛峯寺座主の就任期間は、昭和24年5月7日までで、本書墨跡は、図書発行の同23年6月からの間に記されたことが分かります。優美な筆跡で、一気に書かれたものと推察されます。

本書の請求記号は、660/リ/1(b)。

(つづく)

図書館通信

『図書館の蔵書印』は
今回、お休みです！



●蔵書点検に伴う貸出中の図書返却について

2011年2月7日(月)~4月1日(金)まで蔵書点検を実施致します。所蔵の確認を行いますので、2月4日(金)までに貸出中の図書を全て返却して下さい。上記期間中、図書館は閉館致します。複写・レファレンスサービスはご利用いただけますが、送本サービスのみ1月24日(月)までの受付となります。※返却期限2月4日(金) ご迷惑をお掛けし申し訳ございませんが、今後の図書館サービス向上の為、ご理解ご協力の程宜しくお願い致します。



(編集後記)
閉館中も「それゆけ!としょかんだより」は発行いたします!HPよりご覧下さい。
(石原)

2011年2月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	1	2	3	4	5

2011年1月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

	9:00-18:00		13:00-18:00
	13:00-18:30		9:30-16:30
	9:00-18:30		閉館

発行所
〒648-0280
和歌山県伊都郡高野町高野山385高野山大学図書館 閲覧室
Tel:0736-56-3835
Fax:0736-56-5590
E-mail service-lib@koyasan-u.ac.jp